

専門ノウハウで躍進

ヤマケングループ

「グループ企業が結集して、これまでの実績をベースに、高度な専門ノウハウを發揮し、安心と信頼を与えていきたい」。建築資材、住宅設備機材等の総合商社ヤマケングループ。県内外で企業活動を展開する同グループを紹介する。

—グループの中核、株ヤマケンの創立についてうかがいます。

庄司亨(株ヤマケン代表取締役社長) 山形建設(株)社長を歴任した永野喜一郎氏が、昭和23年、北山形駅西口の自宅敷地に創立した株山形建材を母体としています。永野氏については、同氏が学んだ山形県立米沢工業高等学校の歴史をたどった『懸工物語』(石川敦著)に紹介されています。それによりますと、明治38(一九〇五年)に山形市下條町に生まれ、父

のもとで大工修業したのち、大正14年、米沢工業高等学校建築専科に進みます。昭和3年に卒業し、山形市新築西通りの土木建築請負業佐藤組へ技術者として勤務、土木・建築の現場監督を行います。昭和12年召集され支那事変に出征、軍隊生活を経て、昭和16年に土木建築請負業を自営しますが、太平洋戦争下、山形土建工業(株)に統合され後藤吉太郎氏(山形建設(株)初代社長)のもとで専務取締役となり、終戦後は、神町に進駐した連合軍の宿舎等の施設建設のため結成された連合軍神町施設協力会の資材部長となります。株山形建材創立の発端です。永野氏は本県の建設関連業界等に貢献し、平成19年に102歳の天寿を全うなされました。

—昭和30年代以降、業務を拡大し

てています。

庄司社長 2代目社長となる庄司彦一の時代です。庄司は老舗そば店「そば処庄司屋」(山形市幸町)の次男として生まれ、予科練で終戦を迎えて帰郷します。庄司の長女を妻としていた義兄永野氏に誘われ、建

て、帝国ホテル旧本館の外装タイルを手掛けた伊那製陶(現・I.N.A.)のタイルと、能率風呂工業(現・株ノーリン)が開発したガス釜を入れて、家庭用ガス風呂取り付けのほか、屋根の防水など住宅関連工事を手掛けることになります。これに伴って、防水工事専門の山建工業(株)を設立したのをはじめとして、各部門を分離独立させます。

また、昭和45年の庄内営業所(酒

店)

の立ち上げに続いて米沢、仙台、秋田、福島、いわきに営業所を設立し、「株山形建材」の社名を「株ヤマケン」に変更し、山形エリア以外でも企業活動を展開する、との方針を打ち出します。このことが今日のヤマケングループにつながります。現在、住宅機材全般の販売・リフォーム(増改築)工事や日用大工用品・家庭用品・インテリア各種を販売する「株ヤマケン」、天井・壁・磁器タイル・各種の販売をする「山建工業(株)」、冷暖房・換気設備や上下水道・給排水設備等の設計施工の「山設備(株)」、空調機器類の販売をする「株ヤマケンマシンナリー」、冷暖房のメンテナンスの「ヤマケンビルテックサービス(株)」、環境保全に取り組む「ヤマケンエコ開発(株)」の6社で構成しております。



(写真上)昭和23年に奥羽線北山形駅西口に創立したヤマケングループの母体「株山形建材」。(同右下)跡地に本社に営業活動を展開している株ヤマケンマシナリー



グループの中核・株ヤマケン

3代目社長の森谷純一氏は「創業の志を承継する」を旨とし、経営の安定に努めました。

庄司社長 自社の扱う商品やサービス、技術に磨きをかけること。消費者のニーズを敏感にとらえて対応すること。ことに大切なのは労を惜しまず「足で稼ぐ」こと。すなわち、販路を求めて足を運び、雪の降らない屋根の防水工事現場を求めて、企業を継続発展させた庄司彦一氏をはじめとする先輩たちの開拓精神を持つことです。

加えて人材育成です。私は昭和50年に入社しますが、その前は東京の中堅商社で建築機械部での営業を担当していました。右も左も分からぬまま、半年で現場に放出されました。それが通用した時代でした。でも、今はそれではいけません。上司や先輩が、若手社員に丁寧に指導することが大切です。自らの業務を見直すことにもつながるのです。

人口減少など地方においては厳しい状況が続きますが、「創造・信望・躍進」の社是の下、グループ一丸となって地域経済の活性化に貢献していく所存です。

豊かな住まいと暮らしのパートナー・ホームセンターヤマケン。数万点に上る建築資材・工具を取り扱っている